

平成 29 年度 第 2 回市民活動サポートセンター運営懇話会 会議概要

平成 29 年 8 月 17 日（木）18:30～20:00

横須賀市立市民活動サポートセンター

出席者	9 名…岩堀、石塚、川島、佐久間、多賀名、藤野、三澤、吉田、小澤
欠席者	1 名…妻沼
事務局	2 名…市民生活課 馬淵、長谷川
指定管理者	2 名…NPO 法人 YMCA コミュニティサポート 高橋、沼崎
傍聴者	0 名

- 配布資料
- 1 市民活動サポートセンター例月実績報告・利用者の声
 - 2 夏の市民活動・ボランティア体験 2017 中間報告
 - 3 サポートセンターデータベース登録団体一覧・新規異動分
 - 4 市民公益活動団体継続活動者表彰について（非公開）
 - ・ 生涯現役フォーラム&ひくてあまた月間「協力企画」募集案内
 - ・ 企業・NPO・大学パートナーシップミーティング 2017 in 横須賀三浦チラシ
 - ・ 市民協働推進セミナー「“光る”プレゼンテーション技術を体得する講座」チラシ

1 報告事項

1-（1）利用状況、利用者の声について

指定管理者及び市民生活課から、資料 1 に沿って報告した。

（指定管理者：汐入について）

- ・ 4 月～6 月は前年度に比べ利用者数・利用団体数が減少したが、7 月は増加しており、8 月も前半時点での利用者数は前年度より増加している。
- ・ コピー機・印刷機利用実績は、5 月を除くと前年度比で減少している。要望が多いカラー印刷機の導入について、本格的な検討を開始した。
- ・ 分野別利用者数推移、コーナー別利用者数推移、曜日・時間別統計のデータだけを見て、何かを読み取るのは難しい。例えば、いつ、どの分野の活動が増えているかを集約し、他の地域における傾向と比較すれば、横須賀の特徴が分析できるかもしれない。今後検討していければと思う。
- ・ 活動紹介コーナーは活発に使われており、現時点で予約可能な半年後の 2 月まで、ほぼ予約が埋まっている。毎年数回、多くの来館者を呼べる展示があるが、センター側でも、そうした企画を誘致する努力が必要だと思う。センターを利用していない人にも展示を見に来てもらうことで、利用のきっかけとなる入口として良いコーナーなので、大切にしていきたい。
- ・ 周囲の声が聞こえてきて静かな利用に適さない、という利用者の声がある。サポートセンター設立時の意義づけとして、団体同士顔の見える関係を作るとともに、団体の交流の場にもしていこう、という考えがあり、その一つの表れとしてオープンスペースを採用している。そのため、センターの基本的な立場としては、互いに譲り合い、配慮し合っでの利用をお願いします、と回答

している。ただ、例えば、賑やかなスペースから少し離れたところに、静かな作業スペースを設けるなど、館内スペースの有効活用によって改善できる部分もあると考えている。

- ・利用者の声にある無線 LAN 接続の不具合は、ここ数か月で増えている。不具合の原因を特定するのが難しく、いくつか対処を試みたが改善しない。現在、Wi-Fi の親機を交換する方向で検討中。

(市民生活課：久里浜・追浜について)

- ・利用者数はいずれも汐入同様、7月のみ前年度比で増加している。
- ・コピー機・印刷機利用実績は、久里浜のコピー機のみ前年度より上昇しており、他は減少傾向。

(懇話会構成員からの質問・意見)

- ・キッズコーナーの利用者が少ない。活動団体の高齢化、活動団体数の減少という状況を踏まえ、子育てをしている若い世代が活動に参加しやすくなるような企画を考えてはどうか。
→キッズコーナーの増設、キッズコーナー付近の壁面への子育て支援団体のチラシ掲示など、いくつか取り組んではいるが、大幅な利用者の増加にはつながっていない。ここに来れば子育て支援関係の会議が全部でき、子ども連れの方でも気軽に参加できる、という形まで持っていけるといいが、そこまでのアイデアは出せていない。(指定管理者)
- ・印刷機で地図をよく印刷するが、以前設置していた機種より劣っていると感じる。
→今の印刷機は色がくっきり出るため、文字は見やすくなったが、細かい点で描かれたグレーの部分は潰れやすく、写真、地図等は見え方が劣る部分はあると思う。パソコンから直接出力すれば改善されるものの、スタッフが利用者の希望通りパソコンから印刷するのは難しい。カラー印刷機の導入に向けては、そうしたご意見も考慮したい。(指定管理者)
- ・利用者の声はどのように収集しているのか。
→利用票の裏に意見を記載してもらうのが一番多い。また、利用票を書かない人も、玄関のアンケート BOX に意見を投函できる。その他、この資料に反映しているとは限らないが、ロビーワークでスタッフが直接お聞きしたご意見については、スタッフ会での共有や、機器設備に関することは業者への問い合わせなど、必ず何かしら対応している。(指定管理者)
- ・かながわ県民活動サポートセンターは、ここよりも人が多いが、静かに感じる。利用者が意識して静かにしているのかもしれないが、横須賀のサポートセンターで利用者の声が響くのは、天井が低いという施設の構造的な問題もあるのではないかと。
- ・活動紹介コーナーの年間展示予定を一覧にして、サポートセンターからプレスリリースとして報道機関へ情報提供してはどうか。現状では、個々の団体がそれぞれの人脈をたどってタウン誌や新聞社に広報しているが、団体の人脈の広さによって、メディアに取り上げられる機会が不均等になってしまう。
→例えば初めての団体による展示など、個々の展示企画の中でセンターから記者に情報提供しているものもあるが、年間計画をまとめて提示はしていない。ご意見を踏まえ、あらかじめ分かっている情報は外へ流すようにしていきたい。(指定管理者)
- ・活動紹介コーナーの展示予定一覧を、センター入口などに貼ってはどうか。
- ・ホームページに載っているカレンダーをもっと活用してはどうか。
→ご意見の通り、カレンダーを活用できていないので、情報を掲載していきたい。(指定管理者)

- ・総合福祉会館の利用予約は、一般の団体は2か月前から、福祉目的の場合は3か月前から可能だが、公的機関は1年前から予約できる。先日、福祉目的の利用のため、利用の4か月前に総合福祉会館に電話して公的機関の予約が入っていないことを確認し、3か月前に予約のため並んだが、電話した日以降の1か月の間に公的機関に予約されており、部屋が取れなかった。本来は市民のための施設である。公的機関が予約すること自体はいいのだが、確認した後に予約が入ってしまうようなことについては、何とかならないのか。

→市のイベントや会議でも、土日などで市役所が使えない時は、本来市民のために開放している施設を使わせていただくことがある。また、市が助成している市民団体のイベント等について、市を通して優先予約をすると、市が予約している形になることもある。本来市民のための施設だというのはその通りなので、ご意見として受け止めたい。（市民生活課）

1－（2）夏の市民活動・ボランティア体験 2017 中間報告

指定管理者から、資料2に沿って報告した。

（指定管理者）

- ・参加団体数、イベント数ともに前年度より増加している。
- ・参加団体のポスターコンクールでは、例年の投票数が50～60のところ、今年度は既に100を超える投票がある。団体を作るポスターのデザインも年々良くなっており、多くの方に見ていただけていることが、モチベーションの向上に繋がっていると感じる。
- ・今年度も、よこすかボランティアセンター、生涯学習センターと協力しており、広報ルートが増えた。ボランティアセンター経由で小学校に広報できたことで、子どもの参加も増えたのではないかと感じる。
- ・Facebook ページも試験的に作成しており、動画を掲載してPRしている。

（懇話会構成員からの質問・意見）

- ・団体として、大学授業出張PRに参加したが、その大学のオープンキャンパスの日と団体の活動日が重なってしまい、学生に一人も参加してもらえなかった。もっと早く分かっていたら別の日に設定できたかもしれないが、不運だった。

1－（3）のたろんフェア 2018 について

指定管理者から、平成30年2月開催予定の「のたろんフェア 2018」について報告した。

（指定管理者）

- ・第1回実行委員会を8月23日（水）に開催する。具体的な企画案は実行委員会で検討していくので、本日時点ではまだ提示できる資料はない。
- ・開催日は平成30年2月10日（土）、11日（日）の2日間。
- ・8月10日（木）まで実行委員を募集した。今年度の実行委員は10名で、新しい人や女性が多く、若い年代の人もおり、フレッシュなメンバーとなった。のたろんフェアに長く携わりたいと言ってくれる方もいるが、長い間同じメンバーで実行委員会を続けていくのは望ましくない。長期間関わってくれている人には、今回はぜひ運営ボランティアとして、当日、裏方で支えてほしいとお願いした。

(懇話会構成員からの質問・意見)

- ・特になし。

2 議題

2- (1) サポートセンターデータベース登録団体と公益性の判断について

指定管理者から、資料3に沿って前回以降の新規登録・異動団体について説明した。

(懇話会構成員からの質問・意見)

- ・特になし。

2- (2) 市民公益活動継続活動者表彰制度について

市民生活課から制度の概要と、指定管理者から資料4に沿って表彰対象推薦候補団体について説明した。

※ 会議の内容は非公開とする。

3 その他

市民生活課から、久里浜・追浜市民活動サポートセンターの利用について意見を聞きたいと提案があった。

(市民生活課)

- ・久里浜・追浜市民活動サポートセンターは、利用者数が年間約2,000人、1日平均にすると5～6人であり、決して多くない。利用促進策を検討するにあたって、利用者の目線から、これらの施設に何を求めているかなど、率直なご意見をお伺いしたい。

(懇話会構成員からの質問・意見)

- ・19:30に閉館してしまうので、夕方から集まると時間がない。21時くらいまで営業していると集まりやすい。
- ・商業施設の中の1コーナーなので、物理的な制約もあると思う。
- ・朝10時にならないと建物が開かないが、大量に印刷する際は印刷機を確実に使うため、開館前から並び、開館したらセンターのある階まで走っている。一度印刷を開始すると、他に1,000枚単位で印刷したいという人が来ても割り込んでもらうのは難しく、印刷が終わるまで待つてもらうことになってしまう。予約できるようになるとありがたい。
- ・自治会のコピー機が安く使えるようになったので、センターには行かなくなった。
- ・印刷機やコピー機のトラブルの際、センターの職員が対応できないことが多い。少しの不具合でも業者が来るのを待つてになってしまう。簡単な紙詰まり等であれば職員が対応できるように、メンテナンスの知識を持ってもらえると使い勝手が良くなると思う。
→汐入のサポートセンターは指定管理者制度を導入しており、設備をよく分かっている専属スタッフが常駐しているのに比べて、久里浜・追浜サポートセンターは直営であり、職員が役所屋スタッフと兼任しているため、対応が行き届いていない部分はあると思う。(市民生活課)
- ・利用者用に、コピー機、印刷機のマニュアルを置いておけばいいのではないか。

- 汐入のサポートセンターでは、機器トラブルがあった場合、スタッフが対応するので、利用者は操作しないようお願いしている。それでも、指定管理者でも直せる部分と直せない部分がある。直せない部分は業者を呼ぶことになるが、大抵1時間以内には来てもらえる。また、機器を複数台設置しているので、1台使えなくなっても、他の機器で対応できる。(指定管理者)
- ・役所屋の利用者数がそれなりに多いにも関わらず、サポートセンター利用者の少なさが信じられない。会議や作業などのしっかりした用途以外の利用、例えば待ち合わせやちょっとした休憩などでの利用者が流れ込みにくい構造なのか。
- 久里浜・追浜いずれも、サポートセンター部分は部屋として区切られている。利用票に団体名等を書き、部屋の入口に掲示して入室する仕組みのため、目的がない人は入りにくいと思う。
- 市民活動の支援施設として、どこまで厳密に利用目的を線引きするかは難しい。(市民生活課)
- ・ああいう構造の施設では、利用目的を厳密に固めてしまうと、利用者数にはどうしても限界があるだろう。中に入りやすくする工夫があればと思う。
 - ・ミーティングスペースを利用しているが、非常に重宝している。印刷機は、ロッカーに紙を置いておける汐入のサポートセンターに比べると、紙を持参する必要があるのは負担だと思う。

連絡事項

(指定管理者)

- ・企業・NPO・大学パートナーシップミーティング 2017in 横須賀三浦（9月11日）のお知らせ。
- ・生涯現役フォーラム（11月25日）と協力企画募集のお知らせ。

(市民生活課)

- ・市民協働推進セミナー「光るプレゼンテーション技術を体得する講座」（9月20日、30日）のお知らせ。
- ・第3回運営懇話会は平成29年11月16日（木）18：30～サポートセンターにて開催予定。

以上